

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現									
評価項目		評価の具体項目		年 度 当 初 目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		経過・達成状況		評 価 結 果 ()月		評 価		改善方策	
1	学 力 の 向 上	①	授業改革と学力の向上	【授業改革】 ・各科・教科によるアクティブ・ラーニング(AL)を用いた公開授業の実施 ・家庭学習時間は1年生95.6分、2年生83.5分、3年生73.8分は例年並み ・学校評価アンケートによる生徒の授業満足度は概ね良好(72%) 【学力の育成】 ・基礎力診断テストについては基礎力不足層(Dゾーン)が全学年ともに約50%を占有、基礎学力の定着に課題 ・全国工業高校校長会主催標準テストについては成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・ロッカー内およびロッカー上の整備が向上 ・授業前の着席と挨拶は改善 ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題	【授業改革】 ・ALを実践する職員数の増加 ・進路を切り開く主体的な学びの実践 ・ICTを活用した分かりやすい授業づくり ・80%以上の生徒が授業に満足と回答 【学力の育成】 ・進研模試において、SS50以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層(Dゾーン)の減少 ・専門教育に対応する数学力の定着 【学習環境の整備】 ・「5S・あさひ」を励行し、落ち着いた学習環境づくりを率先 ・ICT環境の整備	【授業改革】 ・ALの理解を深め、実践につながる研修会を年2回実施 ・他校で開催される学習理論研修への参加を勧奨 ・プレゼンテーションソフト及びタブレット端末の利用促進 ・授業評価アンケート結果に基づく授業改善の実施 【学力の育成】 ・進学補習の計画的実施 ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 【学習環境の整備】 ・教室美化、授業準備と挨拶の徹底 ・図書館のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施									
		②	主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 (自宅学習時間:理数工学科124分、工業学科75分) ・課題提出等の期限厳守に課題 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 ・担任・教科担任で進路面談・声かけ等を実施 ・シラバスにより評価規準を生徒に周知	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習態度の育成 (自宅学習時間:理数工学科150分、工業学科80分) ・基礎学力の向上 ・具体的な進路目標の設定による進路意識の向上 ・進路を意識した座学と実習の効果的な授業展開	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・家庭での情報端末の利用を減らし、自宅学習時間を確保 ・週末課題等の定期的且つ適度な量の課題提示 ・学びの延長としての資格検定受検の推奨 ・進路実現のための資格検定取得の奨励 ・継続的な個別面談による進路意識の向上									
2	豊かな人間性の育成	①	互いを尊重する態度と社会性の涵養	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備しているが、悩みを抱えている生徒は少なくない理解 【指導力向上の職員研修】 ・7割の職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供は速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できる生徒の増加 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・いじめが無く、学校生活を安心して送れる生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気 の確立と、勉強が楽しいと思える生徒の増加 【指導力向上の職員研修】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性教育】 ・人権教育LHR・性教育LHRの充実 ・WYSH教育LHRを1年生に実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・ハイパー・QUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ・いじめアンケート等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ・教職員や外部関係機関との連携を強化、充実 【指導力向上の職員研修】 ・研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進 ・人権教育LHRの指導案の充実									
		②	健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ち着いてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 (平成27年度実績:テクノボランティア25名、「ダメ、ゼッタイ。」街頭キャンペーン15名、献血街頭キャンペーン21名、鳥取砂丘ボランティア除草8名、「あしなが学生募金」ボランティア7名、等) 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 (平成27年度実績:高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、等) 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ・いつでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ・頭髮検査の不合格者数半減 ・正しい制服の着こなしの定着 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 【環境改善】 ・廃棄物は2014年度比10%減、電力消費は2010年度比13%減 【安全教育】 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ・登下校時の無事故 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上	【基本的な生活習慣の確立】 ・「5S・あさひの日」の継続 ・生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ・日常的頭髮・服装指導の徹底 ・頭髮検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員、生徒会役員の参加行事数の増加 【環境改善】 ・標語、環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 【安全教育】 ・全職員による朝の交通指導の継続 ・各種安全教室の実施 (携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等)									
3	キャリア教育の充実と進路実現	①	専門的な知識・技術の習得	【人材育成】 ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学を工業関連企業20社・学校関係2校・公共施設4箇所 で実施 ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施しルール・マナーの指導の徹底 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・ものづくりコンテスト中国大会の3部門に計4名が出場予定(中国大会は平成28年6月) ・資格・検定ガイブックを4月中旬に配布 ・計算技術検定では科と学年が連携、他の資格においても早朝・放課後補習を多くの科で実施し、一人一資格取得は概ね達成したが、各種資格取得率、検定合格率に課題 (平成26年度実績:測量士補4名合格、計算技術検定合格率85%) (平成27年度実績:測量士補合格者なし、計算技術検定合格率60%) 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容の指導が必要 ・レポートを期限内に提出できない生徒があるが、各担当科で提出・再提出の指導を行い、改善傾向	【人材育成】 ・生徒の勤労観、職業観の育成 ・「5S」の定着 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・卒業までに一人一資格以上を取得 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポートの内容と書き方の向上 ・レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ・キャリア教育充実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容を精選・充実 ・実習や課題研究を中心に5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導 ・資格・検定について意識を高めるガイドブックを配布 ・全生徒の一人一資格の達成に向け、資格取得のための補習を実施 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容の赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示									
		②	勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・国公立大学への進学は現役10名、浪人6名の計16名 ・就職の一回目選考試験合格率は82.2%(平成26年度82.4%)で、前年度とほぼ同じ	【職業意識の育成】 ・地域や企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じ、生徒の職業観、勤労意識の育成 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・進学は10名以上が国公立大学に合格 ・就職は一回目の選考試験合格率90%以上	【職業意識の育成】 ・働くことの意義や学びを意識したインターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師の実施 ・資格取得の奨励と指導により職業意識を向上 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種進路行事への参加 【進路指導の徹底】 ・担任団・科職員との面談により、生徒が目標とする進路の方向性を定め、日々の努力を支援 ・進路希望調査を定期的に行い、保護者と共に生徒の進路を検討、再確認 ・校内進路HPの構成を見直し、進路選択への有効な情報の提供 ・具体的な将来像を描くため、上級学校、企業と直接話しをする機会を多数設定 ・キャリア教育の全体計画を踏まえ、個々の事業がにつながる進路指導を実施 ・ポートフォリオを活用し、日々の取組と将来の目標を定期的に振り返り、自己実現への意欲を喚起 ・理数工学科においては、「理数工学Ⅰ」、「理数工学探究」への取組及び高大交流事業・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習にフィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点での進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月には最終的な進路希望の決定									
		③	地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 【情報発信】 ・各事業の実施や学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津ノ井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数4校)や中学生体験入学、鳥工TECの実施により科の魅力や中学生へPR 【地域との連携】 ・津ノ井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事を通して、地域との連携を強化 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールや保護者との連携により、学校行事への保護者参加は前年度並みののべ472名(平成26年度実績:のべ486名)	【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 【情報発信】 ・地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化	【人材育成】 ・各企業との連携を図り、企業見学、インターンシップなどを通じて企業ニーズに応える人材を育成 【情報発信】 ・出前授業や中学校体験入学、テクノボランティアの実施や各働事への出席、HP等での情報発信 ・HPやまちこみメールの活用により学校への保護者の関心を高め、行事への参加を促進 【地域との連携】 ・テクノボランティアや桜ヶ丘グリーンゾーン活動等の地域貢献活動の充実 ・津ノ井地域懇談会、地域文化祭を通じて地域とのより一層の交流 【PTA活動の推進】 ・各事業への保護者の参加を促すことによるPTA活動の活性化									

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く アクティブ・ラーニング(AL):能動的な学習への参加を取り入れた学習法 ICT:情報・通信に関する技術の総称 WYSH教育:性に関する教育(自分らしく輝いて幸せに生きるための教育) ハイパー・QUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のものづくりの紹介

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]